

下山運輸株式会社に勤める鈴木は、預金残高を確認するために、銀行に電話を入れた。

「ありがとうございます。スルガ銀行本郷台支店でございます」

「私、下山運輸株式会社経理部の鈴木と申しますが、当座預金の残高を確認したいのですが」「かしこまりました。それでは折り返しお電話でお知らせすることになります。よろしいでしょうか？」

「はい、結構です」

「では、お口座番号とお名前、それとお届けになっているご住所とお電話番号をお願いいたします」

「はい、口座番号が当座預金の三〇八三五―一三、下山運輸株式会社です。住所は横浜市栄区東本郷町八―三―三〇七、電話番号は〇四五―三六五―八八〇―一です」

「かしこまりました。私、佐竹と申します。すぐにお調べして折り返しお電話いたします」

「よろしく願います」

受話器を置いてから数分後、鈴木あての電話が取り次がれた。

「鈴木さん！ スルガ銀行の佐竹さんという方から三番にお電話です」

「はい、鈴木です」

「もしもし、スルガ銀行本郷台支店の佐竹と申しますが、鈴木様でいらっしゃいますか？」

「はい、そうです」

「先程お問い合わせいただきました、当座預金残高を申し上げますがよろしいですか？」

「はい、お願いします」

鈴木はあわててメモの用意をした。

「ただ今の残高、八十八万三千三百九十一円となっております」

「八十八万三千三百九十一円ですか？ ええと振込が一件あったと思うんですが・・・」

「そうですか。どちら様からおいくらくのお振込ですか？」

「坂田工業株式会社から百三十八万円振り込まれているはずですよ」

「それでは振込の確認をしてみますので、少々お待ち下さい」

受話器からは保留のメロディが流れ、数十秒後、

「大変お待たせいたしました。ただ今お調べしてみました、坂田工業株式会社様からの振込は今のところないようです」

「確かに昨日、手続きを済ませたとおっしゃっていただけです」

「電信振込か文書振込、どちらで手続きされたかわかりになりますか？」

「いいえ、わかりません」

「電信扱いですと当日入金になります、文書扱いですと入金までに多少お時間をいただくこととなりますので、おそらく先方様は文書扱いで振り込まれたのではないのでしょうか？」

「そうかもしれません。ではその場合、入金されるのはいつ頃になるのでしょうか？」

「通常は二、三日で入金となります」

「そうですか。早ければ明日には入金されるかもしれませんがね。ではまた明日、確認してみます。ありがとうございます」

鈴木は少しホッとした表情で受話器を置いた。